

JCCP 閉講式でのご挨拶



モハマッド・アルサルマフ氏

サウジアラムコ

リヤド製油所 エンジニアリング部長

参加プログラム：

TR-10-16: 上級管理者のための戦略マネジメント

(開催期間：平成 28 年 10 月 11 日～21 日)

中井理事をはじめご来賓の方々、本プログラムのマネジメントに携わってくださった
方々、みなさん、おはようございます。

まず初めに、石油産業の戦略マネジメントコースの参加者を代表して、閉講式でお話を
する機会をいただき感謝いたします。

今、この場に皆さんと共にいることは私にと
って光栄なことです。また、JCCP プログラ
ムのマネジメントに携わっていただいた、有
井 部長、北原次長とこの閉講式で一緒に
できることを大変うれしく思います。また、本
日ご事情で湯浅部長にお会いできないことを
残念に思います。

日本はこのような戦略マネジメントプログラ
ムを実施する国として、大変インスパイアリ
ングであると思います。日本にはエネルギー

産業のあらゆる分野の強みが集約されてお
り、クリーンな環境を維持しながら、エネル
ギーの持続可能な将来のエネルギー戦略を共
有するにはとてもふさわしい場所です。

これまでも多くの科学コンファランスやト
レーニングに参加しましたが、今回の JCCP
プログラムに匹敵するものはなく、このプロ
グラムは全く特別なものであったと感じてい
ます。もちろん、他の参加された皆さんも同
じ気持ちだと思います。

私が思うに、これは「パワーオブオープン」
の賜物だと思います。JCCP の運営に携わっ
てくださった皆様は、技術面の情報共有や情
報交換に関してとてもオープンな対応をして
くださいました。

もちろん、「パワーオブオープン」という言葉は、知識の共有、や協力的姿勢、透明性の観点を特に特徴的に表現したものです。

ここで、戦略サイクルである Plan（計画）、Act（行動）、Check（確認）、Adjust（修正）を使ってこのプログラム内容の一部について述べたいと思います。

私たちは、19世紀初めに日本がどのように戦略的計画を策定していったのかを学びました。それが顕著に示されていたのは三菱日立パワーシステムズ（MHPS）の資料館および九州大学の訪問時、そして MHPS 訪問時に参加したエネルギー効率化ワークショップでした。どのようにこの戦略が確信をもって実行され、成功事例となったかについて学ぶことができました。これはトヨタ自動車や MHPS、JX の製油所の訪問で明確になりました。

戦略的な計画を策定後、原油市場で起きた石油危機の、1973年と1986年に、どのように確認、見直されたのかを私たちは理解することができました。それだけでなく、適切な分析方法についても習得することができました。

まず、石油化学市場や潤滑油市場など新たな市場を開拓し、製油所で発電事業を推進し、次に精製効率の改善などで稼働能力を強化しました。

さらに、18社あった石油会社を合併し、2015年には7社に統合し、その事業規模を拡大しました。このようにして、日本人がどのように課題を克服していったのかも学びました。

先に述べました通り、本プログラムは非常に科学的な内容です。私たちは自動車用水素燃料電池などの新技術を目の当たりにし、すでに市場で販売されている燃料電池自動車の試乗体験もいたしました。また、日揮、出光興産、大学の先生の素晴らしい講義により、その他の精製プロセスの新技術についても学びました。

日本文化にも日々触れ、その歴史について多くを学びました。もちろんおいしい日本の伝統的な食べ物も忘れてはいません。長崎平和公園や原爆資料館への訪問は、平和の象徴として記憶に残るものとなりました。

このようなプログラムへのご支援や激励をくださった日本政府に感謝を申し上げたいと思います。また、空港での温かい出迎えから始

まり、プログラム期間中のサポートにつきましてもお礼を申し上げます。

今回のプログラムを支えてくださった方のおかげで天気も申し分なく、一年で一番いい気候を選んでくださったかのように思います。

最後にこの言葉で私のあいさつを終えたいと思います。

「私たちには大きなチャレンジがあります。戦略的な計画を立て、すばらしい機会を作り、各国の協力でより良い幸せな世界を作っていきましょう。」

皆様のご健康と皆さんの国のますますのご発展をお祈り申し上げます。

挨拶が少し長くなりすみませんでした。

